

## 彦根市立病院

# 地域連携 だより

彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地  
TEL : 0749-22-6050(代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室

TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093

業務時間: 月～金曜日 午前8時30分～午後7時

但し木曜日は午後5時15分

土曜日 午前9時～午後12時30分

いつもありがとうございます

## 自然災害 いつかやって来る その日に備えて

地域連携センター長  
日本DMAT隊員(総括)  
吉川 浩平



日本中が新しい年の始まりを祝っていた元日の16時10分、ただごとではない揺れが能登半島を震源に日本を襲いました。救急センターで診療中であった私は、永遠に続くのではないかと思うほどの長い揺れを感じ、13年前の東日本大震災を思い出さざるを得ませんでした。

1995年に発生した阪神淡路大震災を教訓に、日本で災害派遣医療チームDMAT(disaster medical assistance team)が組織されました。訓練された少人数のチームが機動性をもって48時間以内に被災地内に赴き、さまざまな医療支援をおこないます。滋賀県ではDMAT指定医療機関(=災害拠点病院)が9つあり彦根市立病院もその一つです。「防ぎえた災害死」をなくすため、隊員たちは訓練や研修を繰り返し、いつ発生するか知れぬ災害に備えています。

大規模な災害が当地で起こった場合、彦根保健所に保健所長を本部長とする保健医療福祉

調整本部が設置され、DMAT活動拠点本部を併設します。被災状況や必要な支援の内容を情報収集し、滋賀県の調整本部や関係機関とそれらを共有し医療支援につなげることも私たちDMATの重要な役割です。その後は彦根医師会の協力を得て湖東地域の医療福祉支援に携わる計画が立てられています。

当院は今回の能登地震に際し1月4日から2月4日までの間、滋賀県の要請に応じ県内では最多の4隊と災害支援ナース1名を石川県に派遣しました。発災直後の急性期支援から広域患者搬送、慢性期といえる避難所支援など、その時期その場所に必要とされる様々な支援をおこなってきました。訓練や研修では得られない経験になりましたが、活動内容は満足には程遠く反省点が山積しています。この経験をふまえ、いつ起こるかかわからない大規模災害に物心両面で備えをしたいと思いを新たにしました。

# 能登半島地震でのDMAT活動

4  
2024

当院には20名のDMAT隊員が  
在籍しています

医師:6名、看護師:8名  
業務調整員(ロジ):6名

過去の出勤実績

- 2011年 東日本大震災(DMAT1隊・救護班2隊)
- 2018年 大阪北部地震(DMAT1隊)
- 2024年 能登半島地震(DMAT4隊)

当院は地域災害拠点  
病院です

## 活動内容

	活動日	発災からの日数	主な活動
<b>第1隊</b> Dr2名 Ns1名 ロジ1名	1/4~1/8	4~8日	病院避難支援、被害状況のアセスメント 支援受け入れ体制の確立
<b>第2隊</b> Dr1名 Ns2名 ロジ2名	1/14~1/17	14~17日	奥能登→金沢への域内搬送 一時待機ステーションの運営
<b>第3隊</b> Dr2名 Ns1名 ロジ1名	1/18~1/22	18~22日	奥能登→金沢への域内搬送 金沢→被災地域外への広域搬送 一時待機ステーションの運営
<b>第4隊</b> Dr1名 Ns2名 ロジ2名	2/1~2/4	32~35日	一時待機ステーションの運営 DMAT業務縮小に向けて業務内容見直し

### ◆ 第1隊 1/4~1/8

参集拠点：公立能登総合病院（七尾市）



#### 1月4日 町立富来病院

建物被害、断水あり  
病室が使えないため入院患者26名を  
搬送するミッション  
→当院はうち1名を七尾病院へ搬送



#### 1月5日 活動2日目

- ミッション①: 本日の役割確認 (活拠本部)
- ミッション②: 町立富来病院の病院避難支援
- ミッション③: 七尾市内の老健アセスメント



富来病院



活動拠点本部

老健えんやま

#### 1月6日 活動3日目

- ミッション①: 本日の役割確認 (活拠本部)
- ミッション②: 能登町役場への挨拶と活動場所の確保



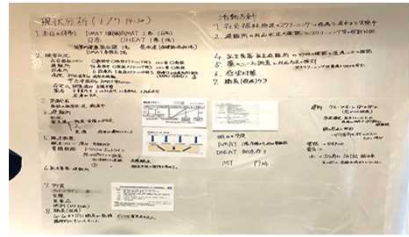
能登町役場

活動拠点本部



## 1月7日 能登町役場への本部設置

クロノロジー(情報を時系列にまとめたもの)作成、被害状況確認(病院、診療所、薬局、高齢者施設、避難所)、搬送調整、孤立集落確認、物資調整、人員調整、活動方針の策定



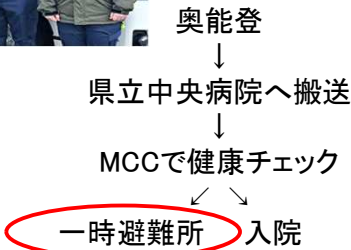
## ◆ 第2隊 1/14~1/17

参集拠点：石川県立中央病院（金沢市）

石川県立中央病院

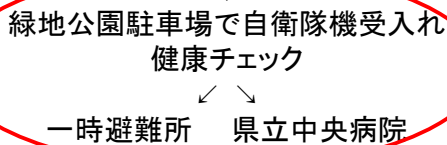
### 1月14日 活動1日目

- ミッション①：活動拠点本部への参集
- ミッション②：MCC(メディカルチェックセンター)の搬送任務



## 1月15日 緑地公園駐車場で自衛隊航空機の受入れ 健康チェック・搬送任務

奥能登



※この時点ではまだSCUは設置されておらず、当院DMAT隊員で受け入れを行った

SCU: 広域医療搬送拠点

## 1月16~17日

### 一時待機ステーションでの活動

一時待機ステーション106床での活動  
IN・OUT時の搬送・引継ぎ  
入所者情報整理、環境整備など



## ◆ 第3隊 1/18~1/22

参集拠点：石川県庁(金沢市)

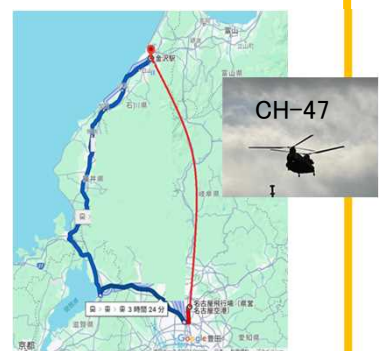
### 1月19日 活動1日目

#### ①緑地公園SCUから広域搬送

分隊しDr1名Ns1名が担当

自衛隊航空機(CH-47)にて  
名古屋空港へ  
避難者15名搬送

帰路は自力で金沢まで電車移動



1月19日

②一時待機ステーションの搬送任務

分隊しDr1名ロジ1名が担当

↓  
加賀市の施設まで避難者2名搬送



1月20～21日 一時待機ステーションでの夜勤

一時待機ステーション160床(2床ずつ80区画)

2チームで管理、夜間は真っ暗

感染症による発熱者が多い



1月22日 一時待機ステーションでの活動

リーダー業務(医師、看護師、ロジ)

IN・OUTの管理

→人数多い(15人搬出の名簿作成・家族に連絡、20人入所の情報収集)

発熱者が多く搬出予定が変わる(新規発熱10人、トリアージ、看護師不足)

周囲の施設がいっぱいで出せる場所が少ない(ケアマネチームとの協働)

面会者や来所者(災害時感染制御支援チームDICT、歯科医師、

眼科医師 etc)の対応

エリアマニュアルの新規策定、処方切れ入所者の同定とDo処方による対応



ST本部長・木全先生(沖縄中部)と本部スタッフとともに

◆ 第4隊 2/1～2/4

参集拠点:石川県庁(金沢市)



2月1日 移動日 ミッション:活動拠点本部への参集

2月2日 一時待機ステーションでの活動

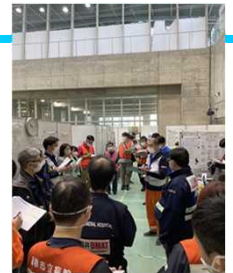
マルチ 40床(1床ずつ40区画)

要介護4～5程度の入所者

DMAT撤収に向けて医療行為は原則その場では行わない方針

必要があれば近隣の医療機関を受診する。

SCUとMCCから撤収のため日中は搬送班が潤沢となったが、夜間は1チームで管理



入所者の服薬管理が不十分

→薬剤師に対応依頼

コロナ患者の介助

DMAT活動規模縮小に向けて活動内容見直し



2月3～4日 一時待機ステーションでの夜勤



ステーション内で胃腸炎が流行

不調者(感染者)の介助

夜間に病院搬送あり

撤収に向けてマニュアルを日夜

変更していく



大規模災害の発生時には、一人でも多くの命を救い、その後の生活支援へとつなげるために、医療・保健・福祉の連携が非常に重要となります。

